

琵琶湖の保全・再生とCO₂ネットゼロに向けた 森林づくりの推進

- ▶ 琵琶湖の水源涵養、淀川水系の流域治水、国土保全および地球温暖化防止など、本県の森林が持つ多面的機能を持続的に発揮させるためには森林の保全・整備が重要。よって、本県の森林づくりの推進に対して、安定的な支援を図られたい。

【要望先】財務省、農林水産省

1. 提案・要望内容

(1) 森林整備事業に対する財政支援

- 琵琶湖の保全・再生と淀川水系流域治水に向けた健全な森林の育成や、「しがCO₂ネットゼロ」の実現に向けて、森林吸収源対策を強化するために、主伐・再造林や奥地における搬出間伐の推進などの森林整備に対する財政支援を充実・強化

(2) 治山事業に対する財政支援等

- 近年、増加している集中豪雨や台風等による土砂流出や流木被害への対応や流域治水の推進に向けた治山事業に対する安定的な財政支援
- 施工時期の平準化に向けた、年度をまたぐ工期設定をするための制度の充実

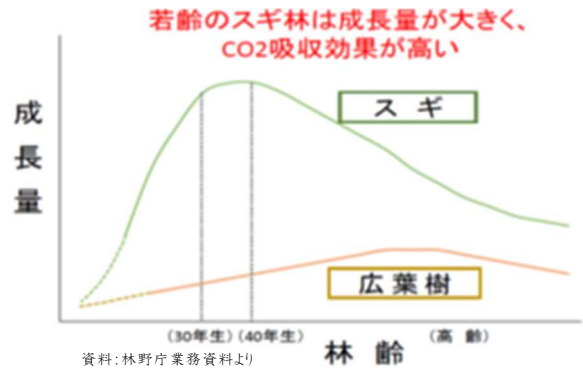
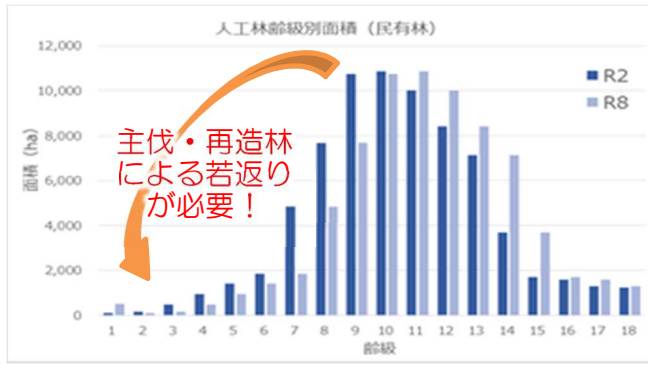
2. 提案・要望の理由

- 本県は、森林の適正管理、林業の成長産業化、さらには農山村の活性化による「やまの健康」に取り組んでいる。
- 喫緊の課題である地球温暖化対策のために、本県は「しがCO₂ネットゼロ」に取り組んでおり、主伐・再造林による森林資源の若返りと奥地における搬出間伐の推進等により、森林吸収源対策の強化が必要。
- また、気候変動の影響により大雨の発生頻度がさらに増加することが懸念されるなか、災害復旧工事の早期完了や、防災・減災、国土強靱化のために治山事業への安定的な財政支援が必要。
- 特に、琵琶湖保全再生法に基づく国民的資産である琵琶湖の保全・再生や淀川水系流域治水プロジェクトの推進、SDGsやMLGs(マザー・レイク・ゴールズ)[※]の目標達成に向けて、本県の森林整備および治山対策のための重点的な財政支援が必要。
- さらに、治山事業を円滑に執行するため、年度をまたぐ工期設定を可能にする、複数年度分の事業採択や交付決定前着手、県債務負担行為の活用明示等、現行制度の柔軟な運用や効果的な仕組みづくりが必要。

[※]MLGs(マザー・レイク・ゴールズ)とは、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会への目標(ゴール)であり、「琵琶湖版のSDGs」です。

(本県の取組状況と課題)

■森林整備事業における課題■



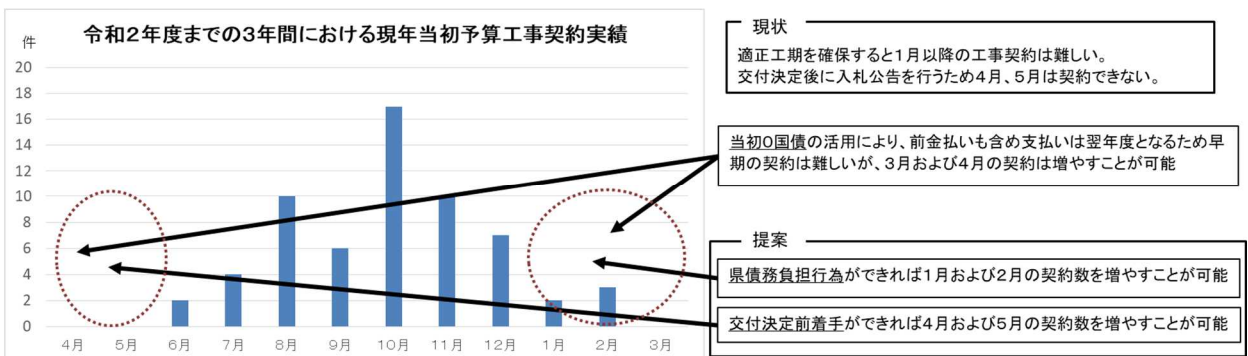
■治山事業における取組状況と課題■

○山腹崩壊による被害及び復旧状況 (H25 災害)

崩落土砂により、死者1名、家屋全壊3戸、寺全壊1戸他の被害

平成25年度に、災害関連緊急治山事業にて緊急対応後、隣接地は復旧治山事業で復旧

○施工時期の平準化に向けた課題



担当：琵琶湖環境部森林保全課
TEL 077-528-3930